

平成23年7月1日



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

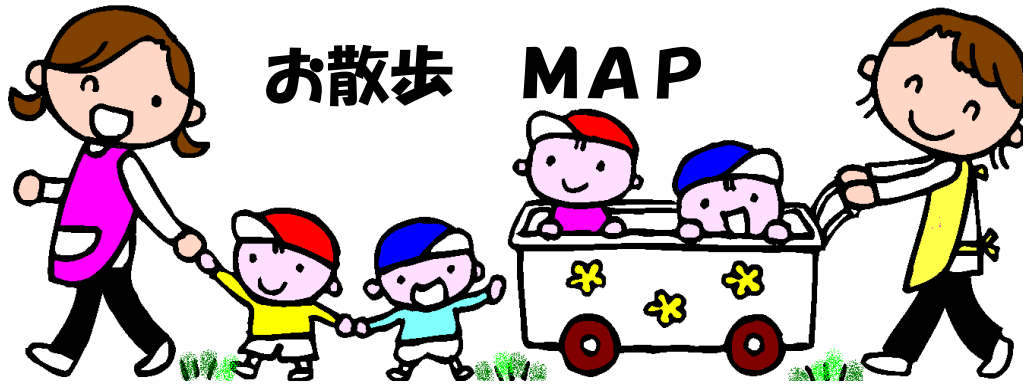
# 秋田赤十字乳児院

〒010-0041  
秋田市広面字釣瓶町100-3  
TEL 018-884-1760  
FAX 018-884-1762  
相談電話 018-884-1761  
URL <http://www.akita.jrc.or.jp/nyujiin/>

広報誌 第22号

# よちよちちゃん





# お散歩 MAP

～ぼくたち 探検隊～

大学病院



歯医者さんの「大きな歯ブラシ」の看板にしがみつくと子どもたち。



わ～い！バラのシャワーだ～！



あじさいにヌメヌメしたものが…



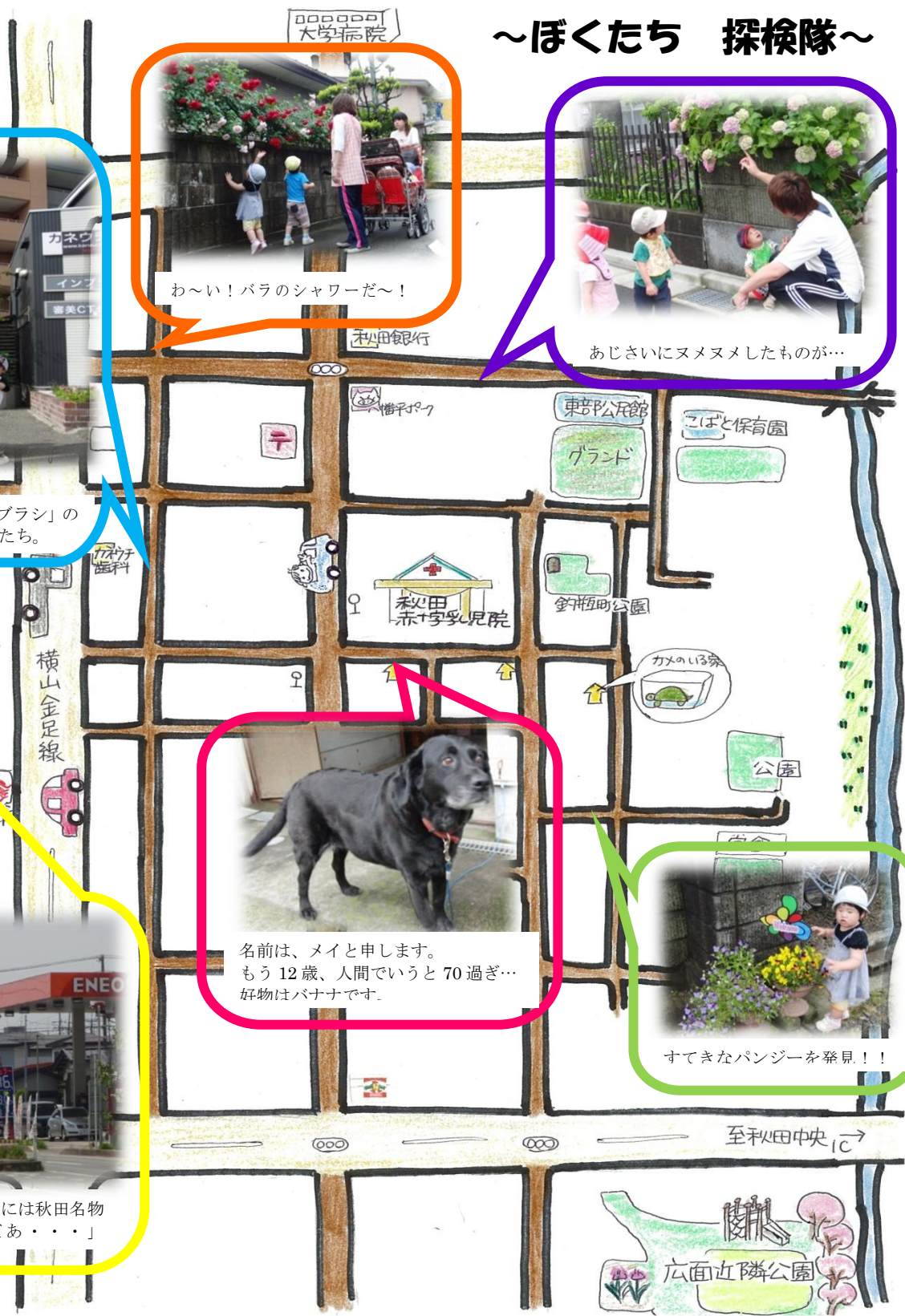
ガソリンスタンドの看板には秋田名物『なまはげ』『おにだあ・・・』



名前は、メイと申します。  
もう 12 歳、人間でいうと 70 過ぎ…  
好物はバナナです。



すてきなパンジーを発見！！





## ぼんだ組

### ベストポイントをねらえ！！

院内で唯一保育室から道路が見られる窓があります。いろいろな自動車が通るのを見るためこぞって窓際へ向かいます。救急車、バス、タクシー、ゴミ収集車・・・一番人気はバスです。

R「バス、のりたいね。」  
保「どこへいこうか。」  
R「動物園！！」  
保「動物園でなにが見たい？」  
R「ん〜と、動物！」  
楽しい会話が弾みました。



「バスだ！ほいほ〜い！」

## ひよこ組

### おはなし、だ〜いすき

3ヶ月ホヤホヤのKくと、もうすぐ2ヶ月になるSちゃん。お話し上手なぼくたち、わたしたち。毎日いろんな声を聞かせてくれます。口を丸く開けて「あ〜う」、足をバタバタさせて「んーんー」、ミルクを飲んで「く〜」とニッコリ♪

さあ、今日はどんなお話しをしてくれるかな？



じっと見つめてお話しするSちゃんとKくん



## ことり組

### 大きくなあれエコカーテン

毎年畑でじゃがいも、かぼちゃ、トマト、そしてイチゴとスイカを作っています。

今年はゴーヤとキュウリでエコカーテンに挑戦。西日を防ぎ涼しさの確保とたくさんの野菜の収穫ができたならウレシイな。

花を見つけては喜び、小さなキュウリの実を見つけては歓声。毎日成育見守り隊が出動。楽しみが大きな散歩コースになっています。



大きくならないなあ。

## ぼんび組

### バイ菌、バイバイキ〜ン

ウイルス性の胃腸炎が流行し、感染を広げないように、症状のある子は早めに受診し、部屋を分けて過ごしました。

ガラス越しに担当職員を見つけても、出られないのがわかるのか、我慢しているのか、静かに遊んでいる子どもたちでした。いつもは泣いて後追いついて、困らせるのに…うれしいような、さみしいような成長を感じる場面でした。



かかりつけ医の石田先生にポンポンポン。  
早く治りますように…。



## まるもりフラザ

～小規模グループはお部屋で配膳しています～

「さあ、ご飯の時間ですよ～！」

みそ汁の鍋や炊飯器が運ばれ、子どもたちは食卓につき、じーとしゃもじさばきを見つめます・・・炊飯器からしゃもじを使ってお茶碗へご飯をよそう、家庭では何げない光景。

子どもたちはフタを開けたときに上がる湯気に「わあ～」と歓声を上げます。今では「おかわりちょうだい」「おつゆも、もうすこし」などの声も聞かれ賑やかな食卓風景です。



メニューは「稲庭うどん」



み～んな食べるよ！

幼児食はメニューがバラエティ豊かです。「きりたんぼ・稲庭うどん」などの郷土料理もメニューの彩りです。

食器の工夫はもちろん、今年度は弁当箱を用意しました。

子どもたちには食事に必要な栄養を摂るだけでなく、心も満腹にして欲しいと思っています。

## 被災地より～支援者への支援～

3月下旬から被災地に通っています。地元支援者を支援する必要性を感じ、同じ人間が継続的に関わることが心のケアには重要と考えるからです。

淡々と仕事をしているように見えた支援者たちは、泣く暇さえなく、行方不明の身内も探せず、食事や睡眠をとる時間すらままならない状態でした。7週間目には身体症状が噴出するほどで、「いろいろな人が支援に入ってくるけど、入れ替わりが激しいため同じ顔に会えると安心する。そうじゃないと、とても相談できない。」との本音が聞かれました。

乳児院の子どもたちも、入所後しばらくは手のかからない子が多いのですが、「この場所は安全だ、この人たちは安心だ」と感じられるようになると、地が出てきて対応が難しくなります。ここからが心のケアの本番なのですが、そこで重要なのは、専門家が短期間関わるのではなく、安心できる人に関わり続けてもらうこと自体がケアになるということです。これは被災者も支援者も同じです。

災害時はケアする側も傷つき、どうすればいいかわからず困っています。本当は普段と違う状態になるのが当たり前と伝え、対処法を共に考えると、ケアする人自身のゆとりが生まれ、不安定な人の傍らに続けられるようになっていきます。そこを援助することが“支援者への支援”なのです。

(臨床心理士 丸山)

## 守る ～We are アンパンマン～

### その1 幼児安全法講習会

定期的に行っている院内研修。今回のテーマは“救急車到着までのジカンをジッカンしよう”。

平均約6分・・・「早く来て～！」と命を祈りながら待つ、心の声が聞こえてきました。

命の重さを感じるなあ...



### その2 飛散防止シート装着

大震災を踏まえ、院内にあるガラス一枚一枚に『飛散防止シート』を貼る職員。

ペタペタと、コツコツと。汗だく、肩こり、何のその！よーし、ラスト数十枚？

☆がんばるぞ～。



### 編集後記

大震災から3カ月がたった今、まだ復興の兆しが見えない。臨床心理士の丸山先生も早くから救護に参加して心のケアを行っている。被災者を支える地元の支援者をケアすることが復興への近道であることは言うまでもない。当院においても、臨床心理士によるコンサルテーションが職員のゆとりと子どもたちの笑顔に繋がっていると日々感じているところです。(石山)